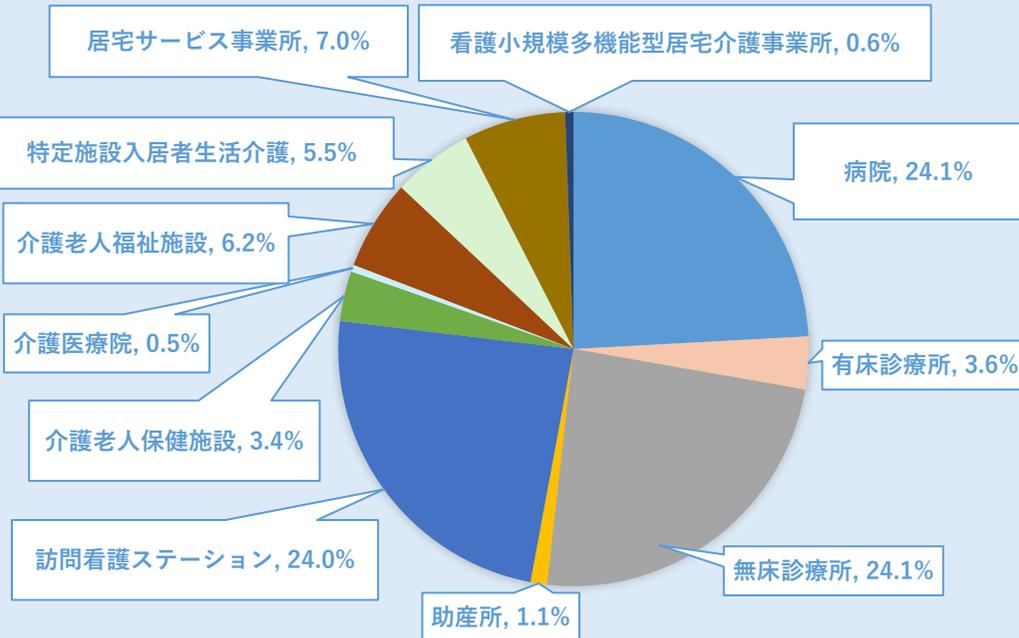


施設種別

n = 1,056

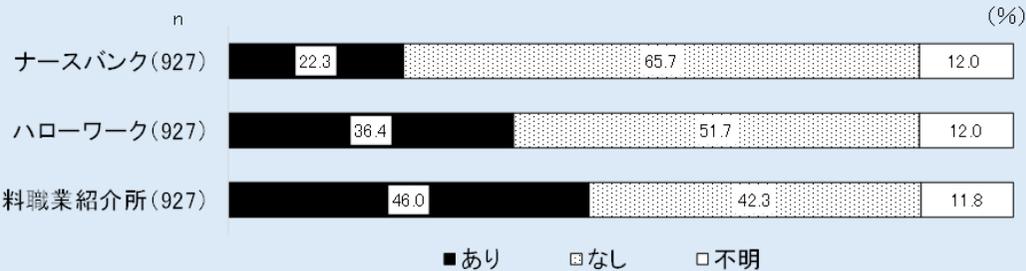


正規雇用看護職員の退職者の主たる理由

令和5年度	退職者総数	人数	割合
退職理由	①定年退職	149	2.8%
	②出産・育児・介護等家庭の事情	641	11.9%
	③転居に伴う通勤困難による	520	9.6%
	④本人の体調不良・傷病等による	707	13.1%
	⑤職場の原因(労働条件・労働環境・人間関係等の理由)	531	9.8%
	⑥進学	107	2.0%
	⑦他施設への転職	1297	24.0%
	⑧看護職以外への転職	178	3.3%
	⑨施設側の働きかけによる(解雇、希望退職の募集、退職勧奨)	49	0.9%
	⑩経済的に働く必要がなくなったことによる	10	0.2%
	⑪新型コロナウイルス感染症による勤務環境の変化や感染リスク	8	0.1%
	⑫その他	349	6.5%
	⑬不明	856	15.8%
小計	5253	97.2%	

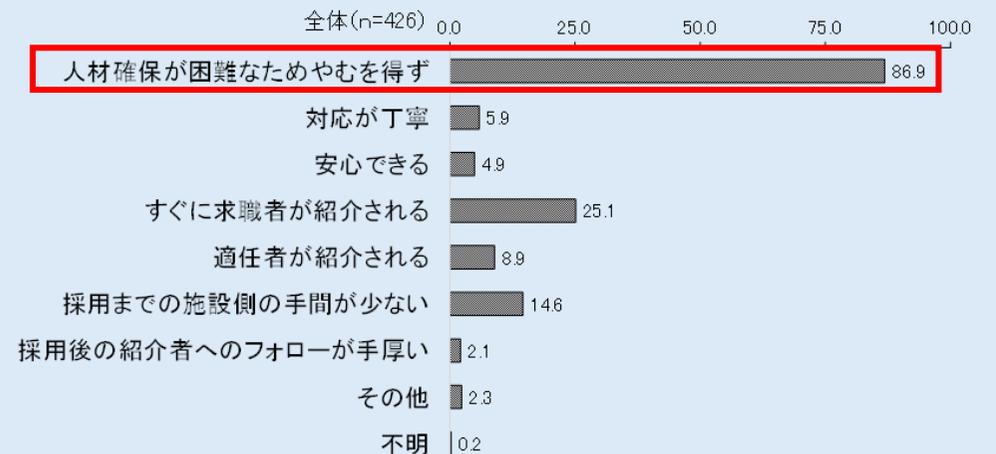
「他施設への転職」が1,297人で最も多く、次いで、「本人の体調不良・傷病等による」707人、「出産・育児・介護等家庭の事情」641人と続く。（「不明」除く。）

無料職業紹介(ナースバンク)等の利用状況



「有料職業紹介所」の「利用あり」が46.0%で最も多く、次いで「ハローワーク」36.4%、「ナースバンク」22.3%と続く。

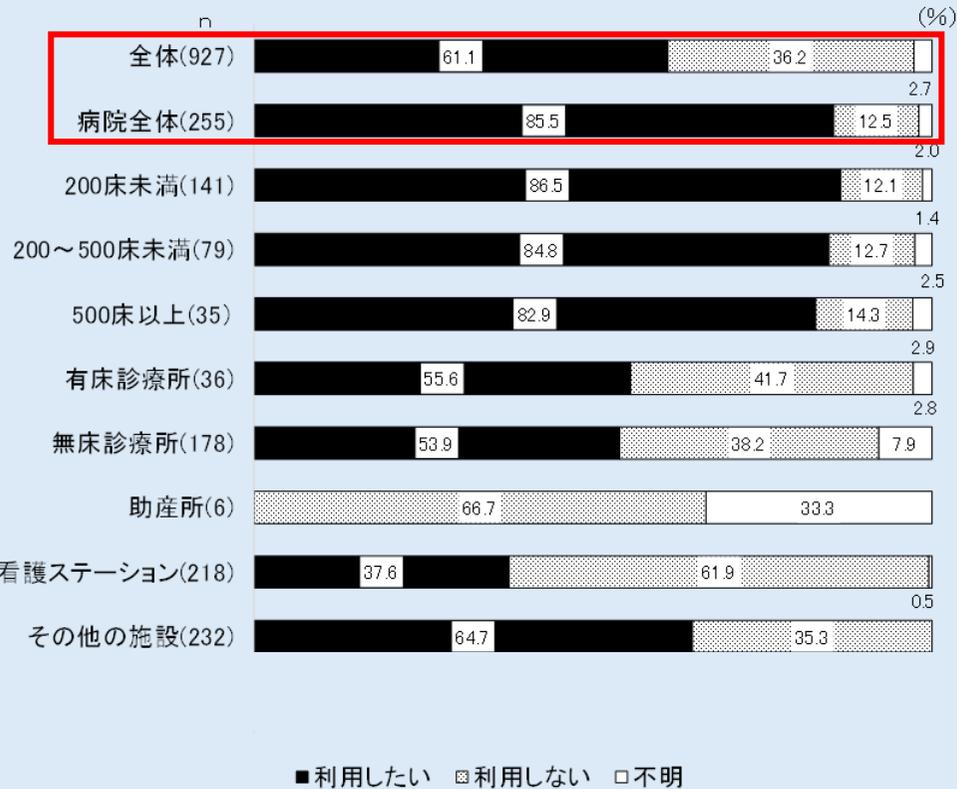
有料職業紹介を利用する理由 (複数回答)



「人材確保が困難なためやむを得ず」が86.9%と最も多かった。

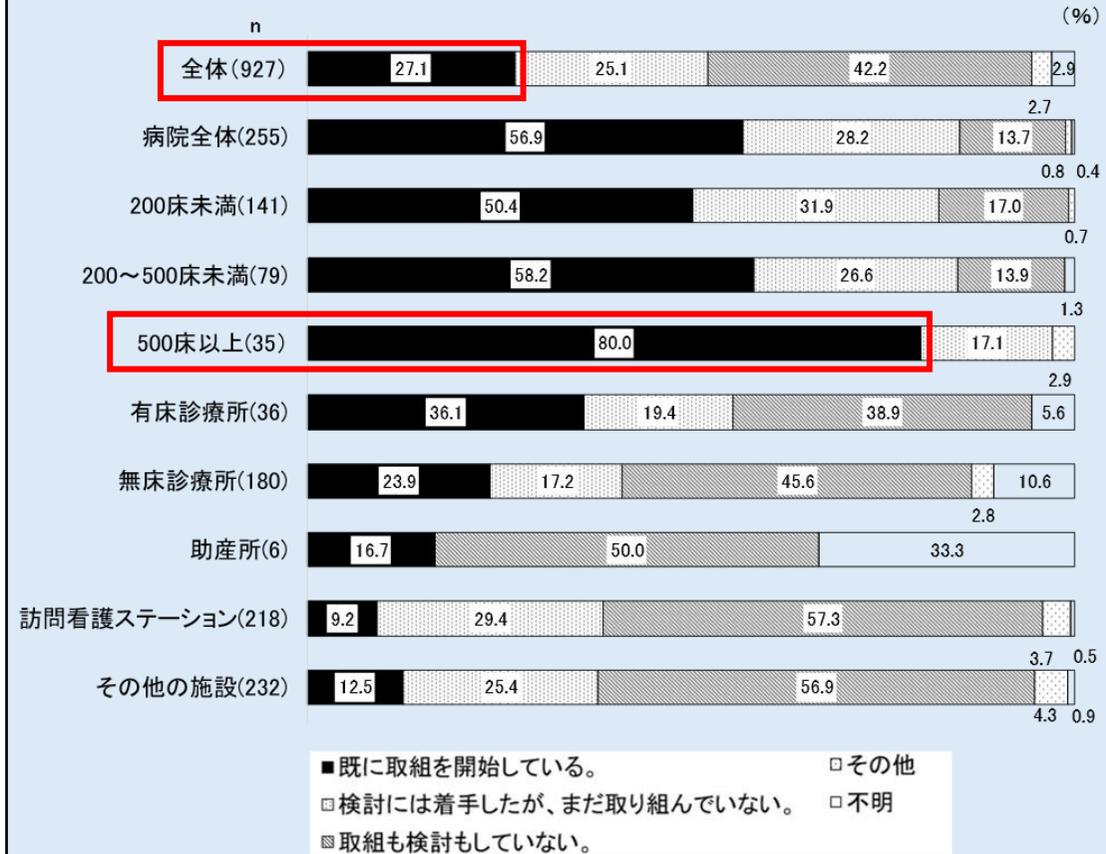
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（管理者編②）

看護補助者の無料職業紹介の利用希望



全体で見ると、6割以上の施設で、看護補助者の無料職業紹介を「利用したい」と回答があった。
特に、病院全体では85.5%が「利用したい」という結果であった。

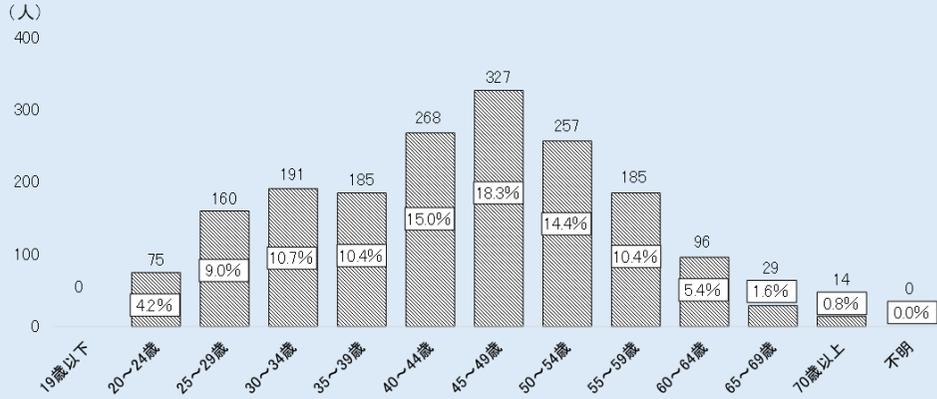
タスク・シフト/シェアの取組状況



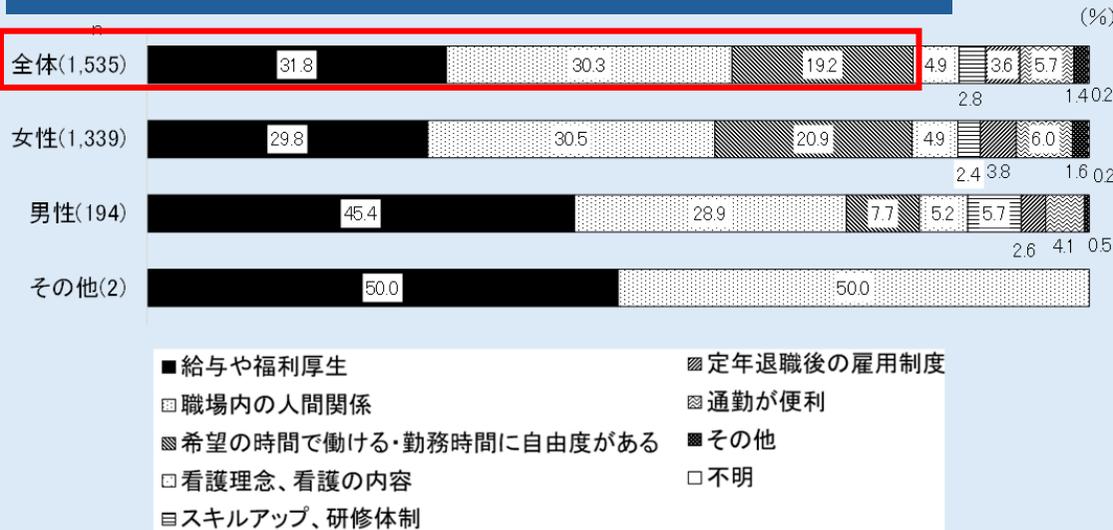
全体で見ると、「既に取り組を開始している」との回答が3割弱となっている。
特に、「病院（500床以上）」で「既に取り組を開始している」が80.0%となっている。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護職員編①）

年齢



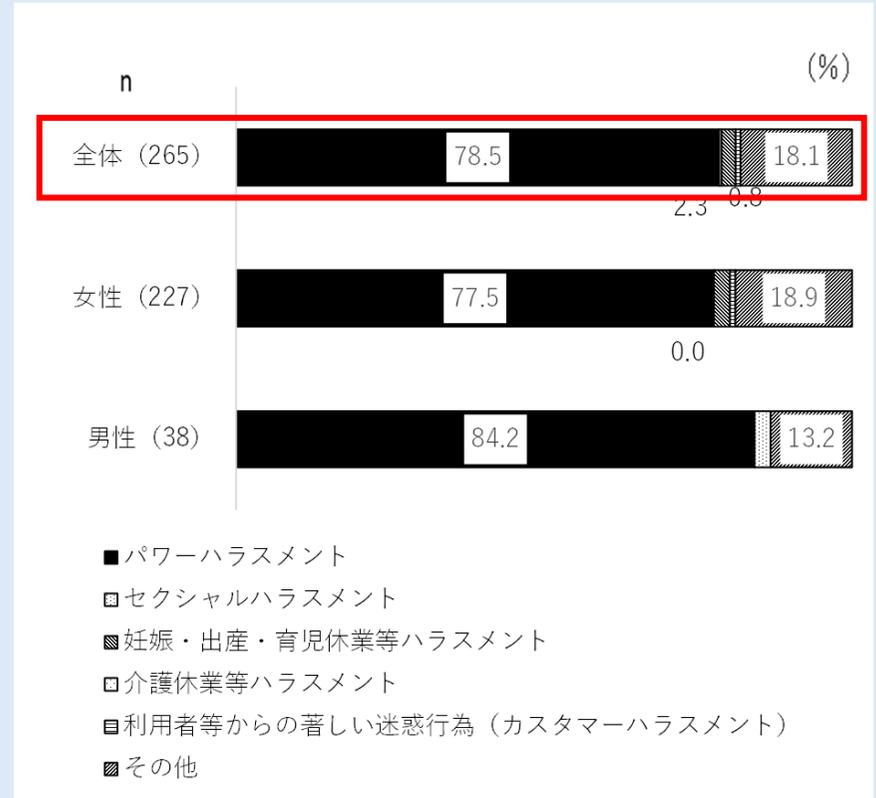
働き続けるために最も重視するもの



全体で見ると、「給与や福利厚生」31.8%、「職場内の人間関係」30.3%、「希望の時間で働ける・勤務時間に自由度がある」19.2%の順に回答が多かった。

職場の人間関係（退職理由）

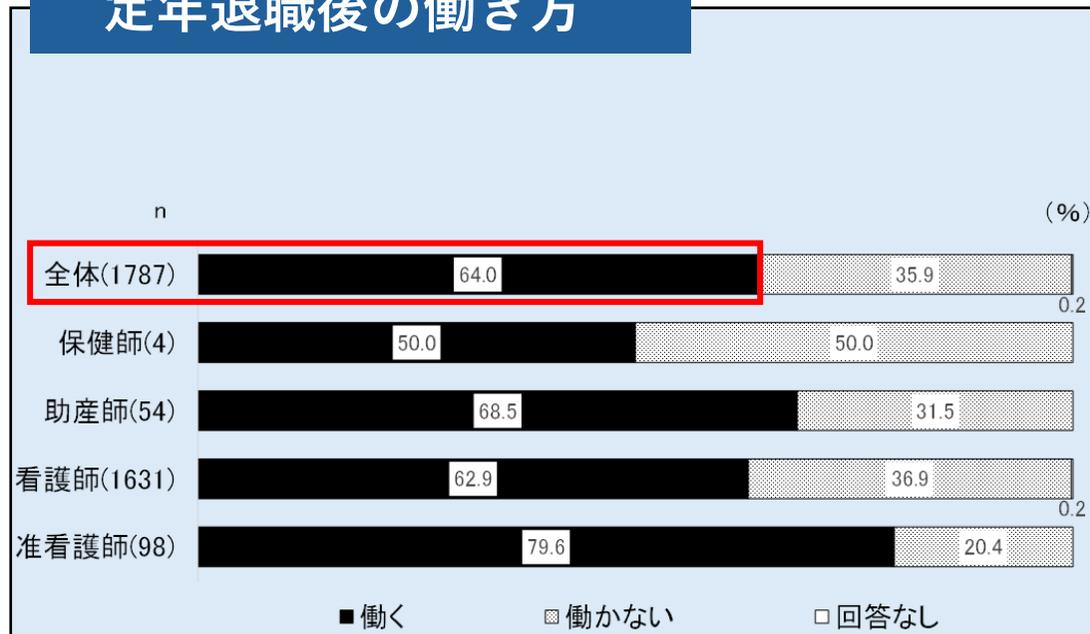
退職歴があると回答した1,237人のうち、退職理由を「職場の人間関係」と回答した265人の内訳



全体で見ると、「パワーハラスメント」との回答が8割弱となっている。「その他」は、「先輩や同僚との人間関係」との回答が多かった。

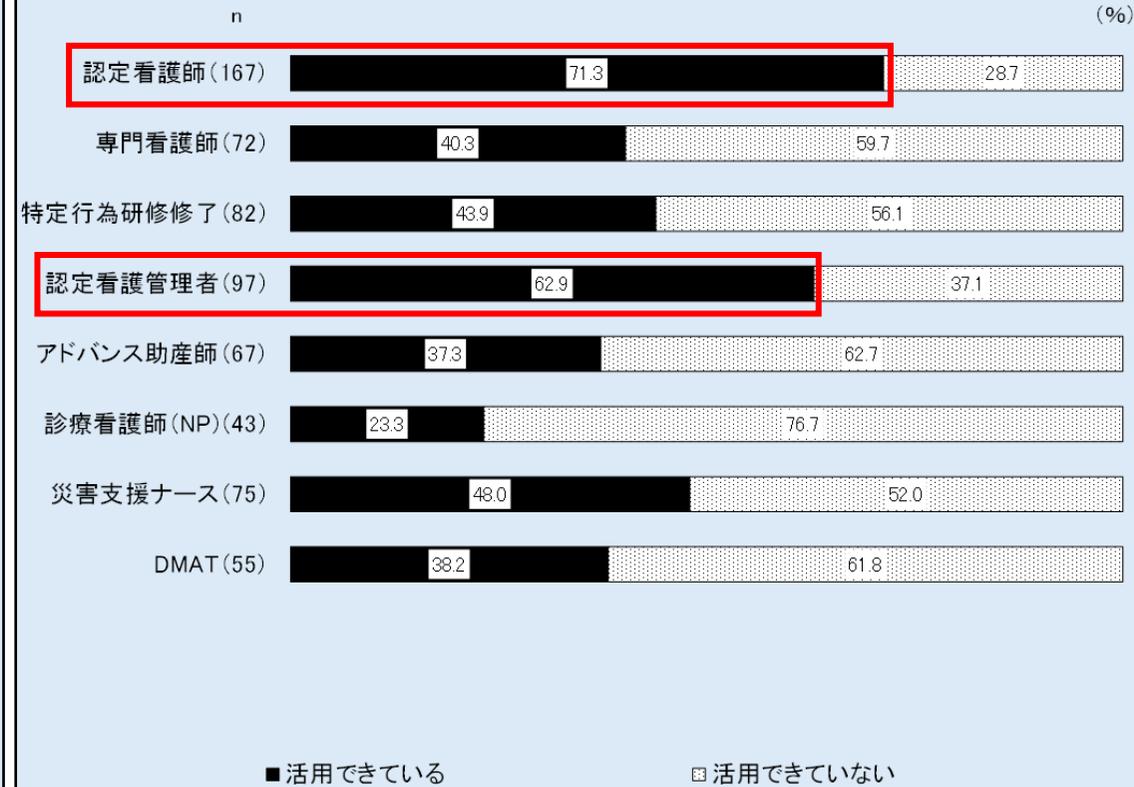
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護職員編②）

定年退職後の働き方



全体で見ると、64.0%が定年退職後も「働く」との回答があった。前回調査では、「働く」との回答が67.2%であり、大きな変化は見られなかった。

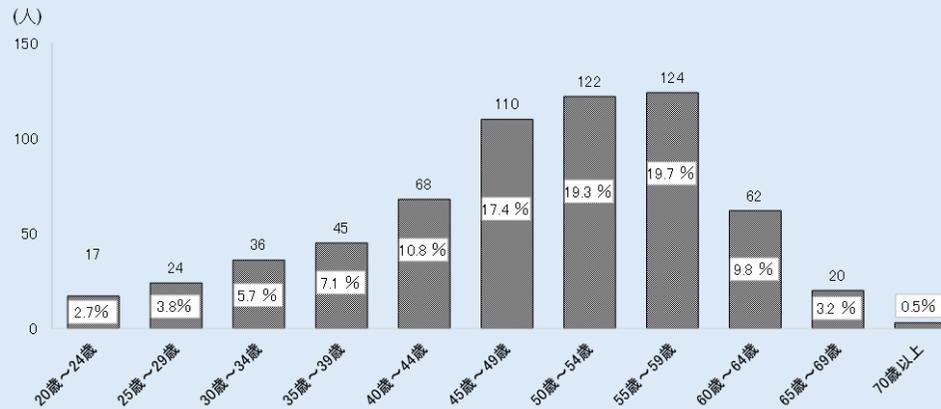
保有している専門資格の活用状況



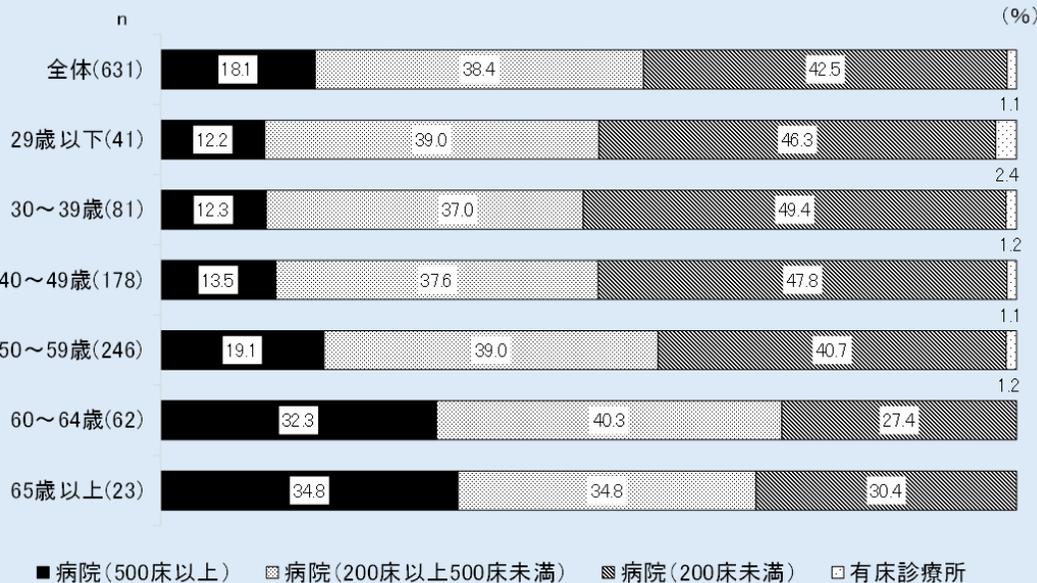
全体で見ると、「看護師」を除き、「認定看護師」71.3%、「認定看護管理者」62.9%と回答が多かった。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護補助者編①）

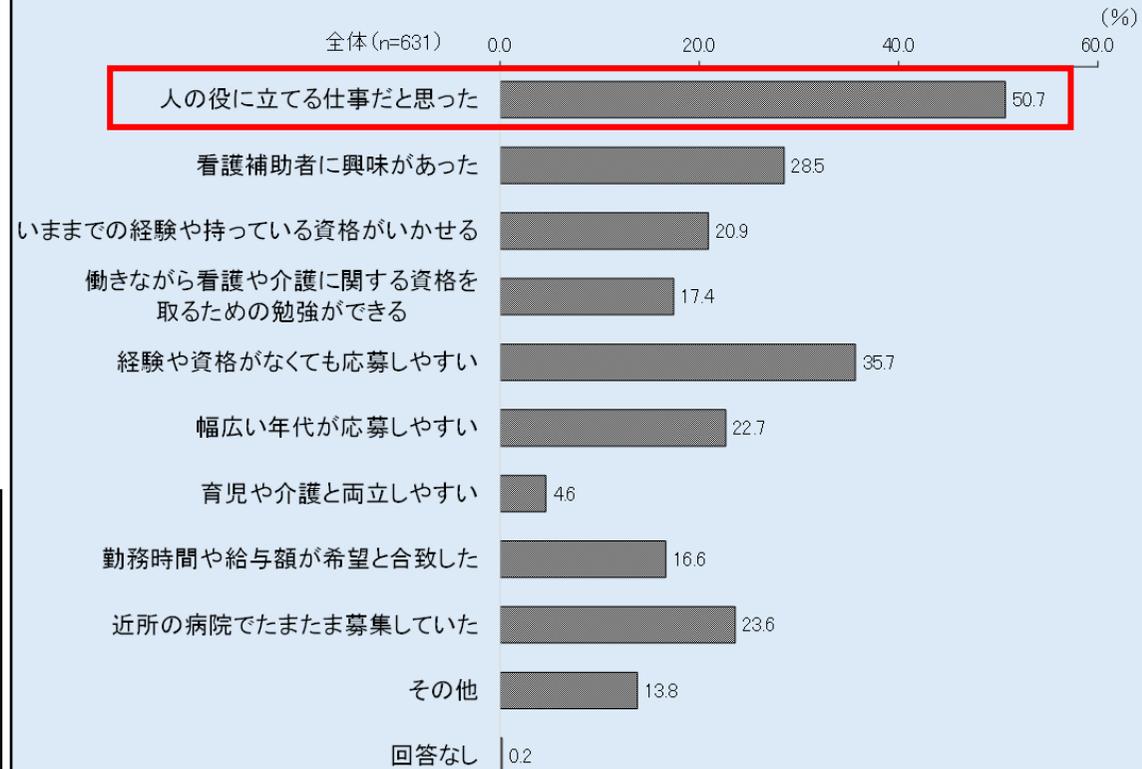
年齢



現在の職場の病床規模



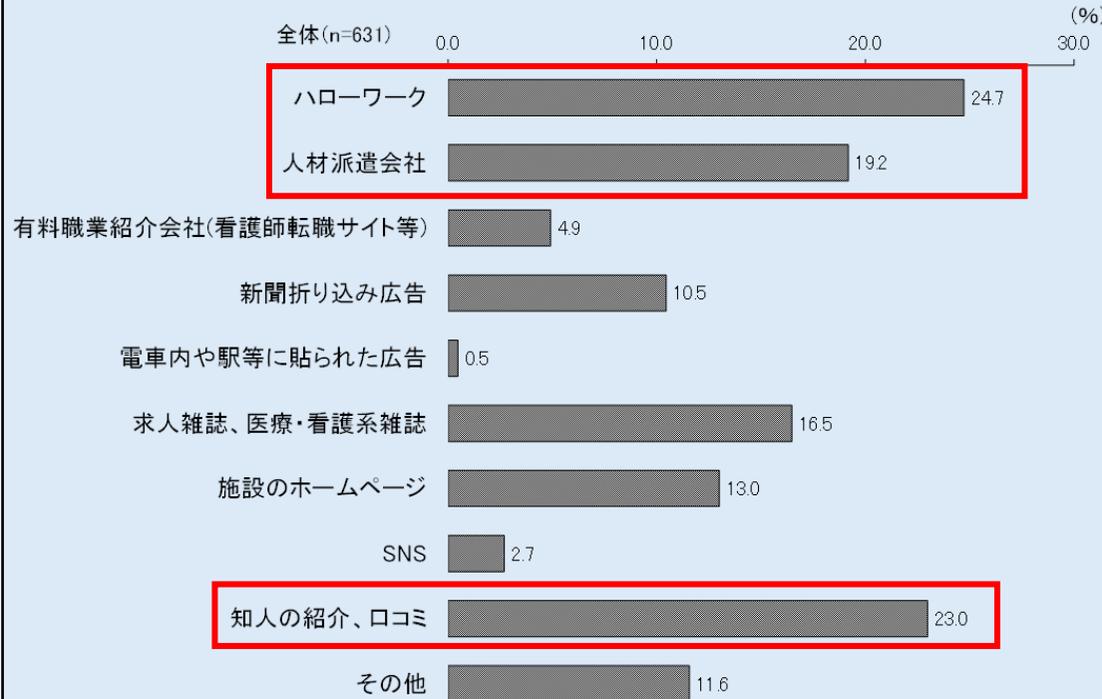
看護補助者を選んだ理由（複数回答）



「人役に立てる仕事だと思った」50.7%が最も多く、次いで、「経験や資格がなくても応募しやすい」35.7%、「看護補助者に興味があった」28.5%と続く。
 「その他」には、「家族や知人等の紹介」、「給与・福利厚生・勤務条件」などの回答があった。

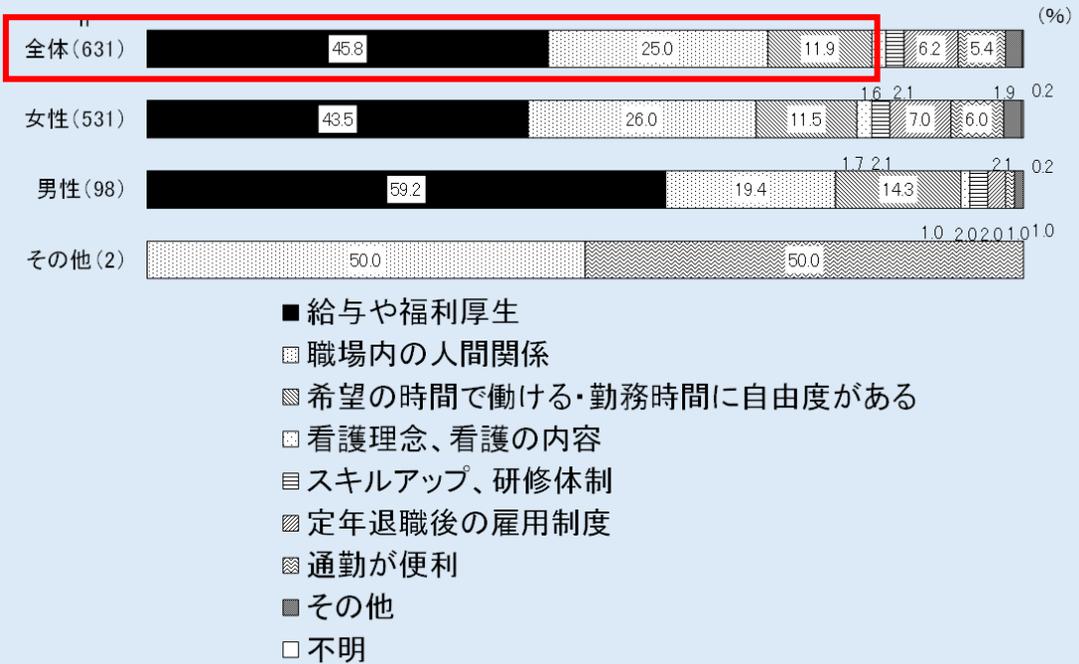
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護補助者編②）

求人情報の取得先（複数回答）



「ハローワーク」24.7%が最も多く、次いで、「知人の紹介、口コミ」23.0%、「人材派遣会社」19.2%と続いている。「その他」には、「学校の求人情報」、「インターネット」などの回答があった。

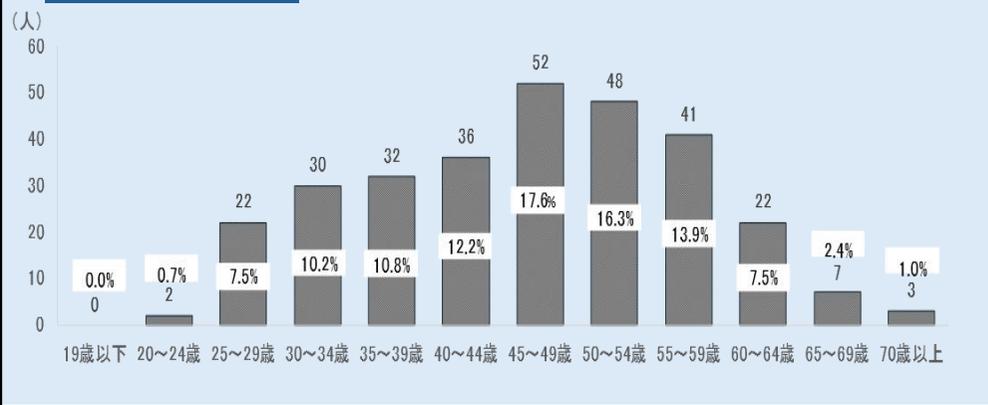
働き続けるために最も重視するもの



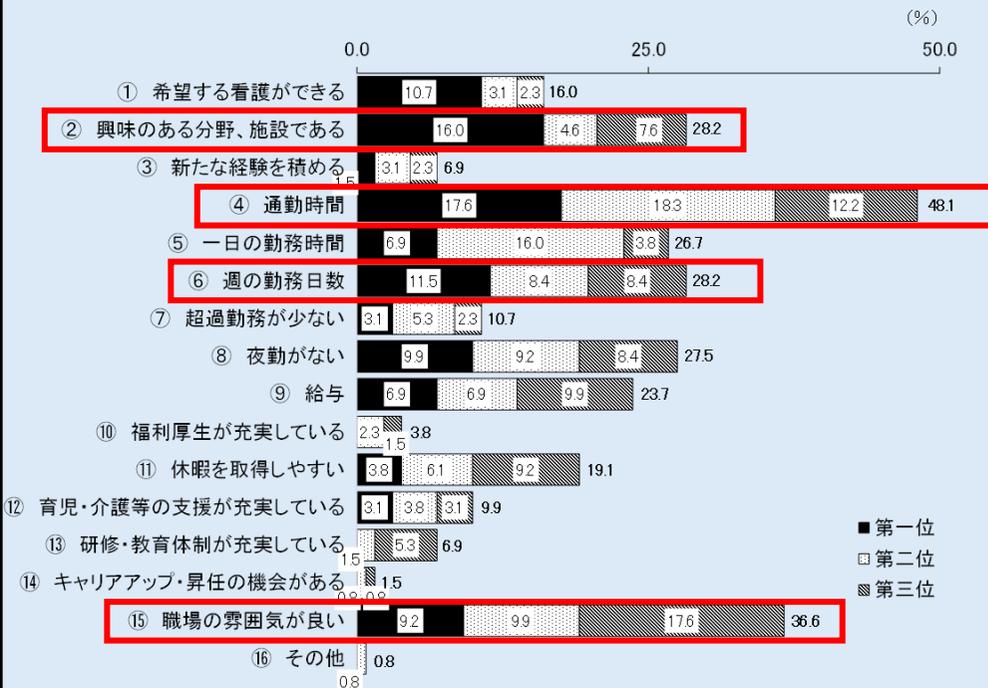
全体で見ると、「給与や福利厚生」45.8%が最も多く、次いで、「職場内の人間関係」25.0%、「希望の時間で働ける・勤務時間に自由度がある」11.9%と続く。上位3つは、「看護職員編」と同じ結果であった。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（離職者編）

年齢

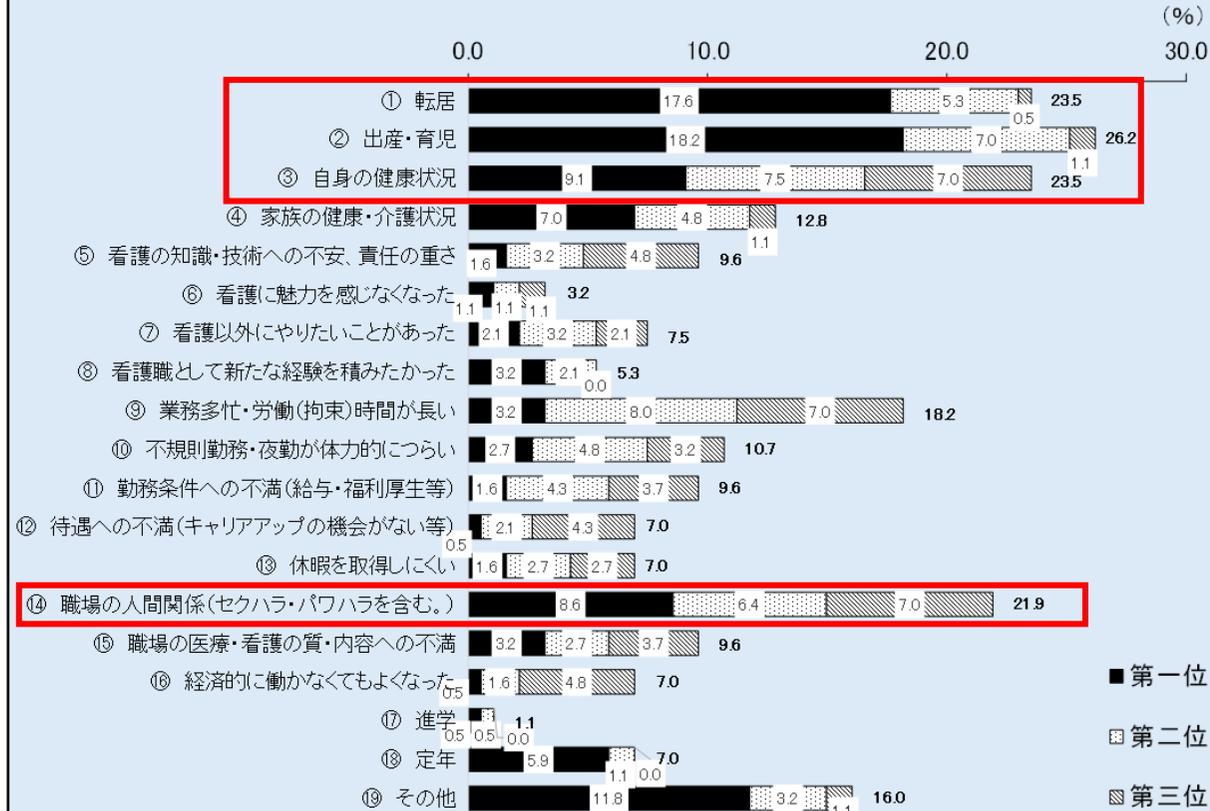


再就業先を選ぶ際に重視するもの（上位3つ）



「④通勤時間」48.1%が最も多く、次いで、「⑮職場の雰囲気がいい」36.6%、「②興味のある分野・施設である」「⑥週の勤務日数」28.2%と続く。

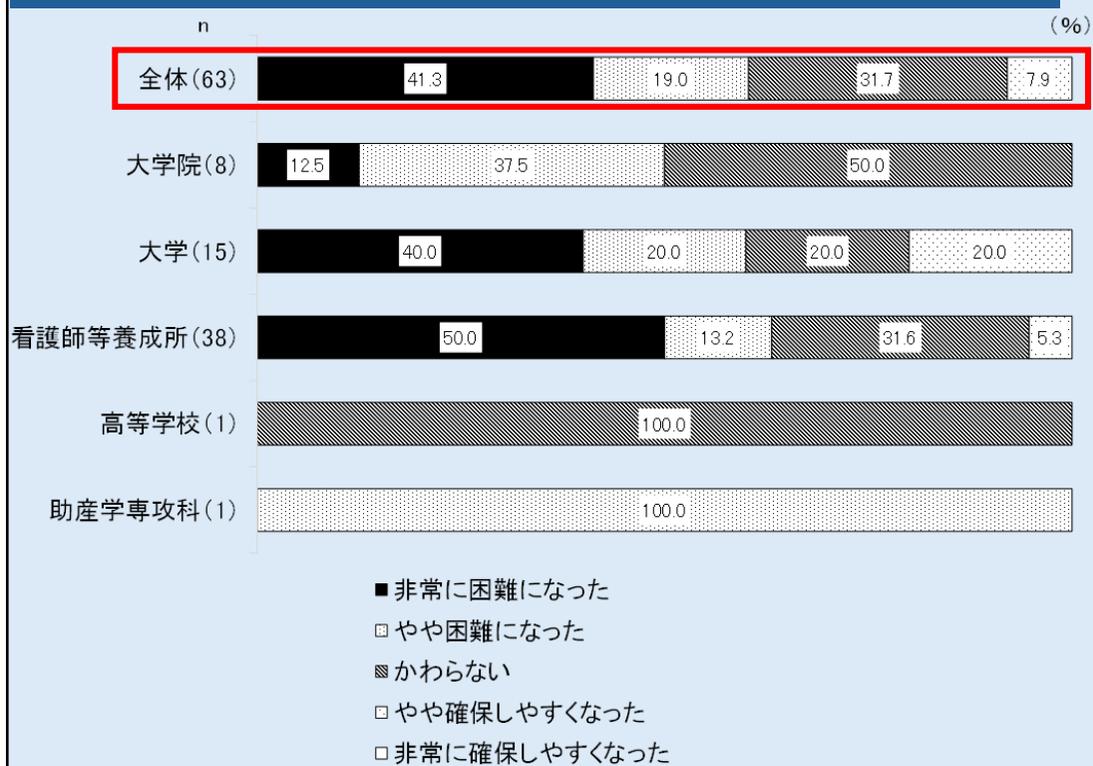
最後まで働いていた職場を退職した理由（上位3つ）



「②出産・育児」26.2%が最も多く、次いで、「①転居」「③自身の健康状況」23.5%、「⑭職場の人間関係」21.9%と続く。「その他」には、「就業先の閉業」、「契約の満了」などの回答があった。

令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（教育機関・養成施設編）

5年前と比較した看護教員の確保状況



全体でみると、「非常に困難になった・やや困難になった」が約6割を占め、「かわらない」が約3割であり、「やや確保しやすくなった・非常に確保しやすくなった」は1割未満であった。

学生の確保状況（充足率）

令和6年度時点

		(上段:人数 下段:割合) (単位:人)		(%)	
応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	1学年定員数	定員充足率
16,315	15,932	6,652	3,752	3,975	94.4%
100.0	97.7	40.8	23.0		

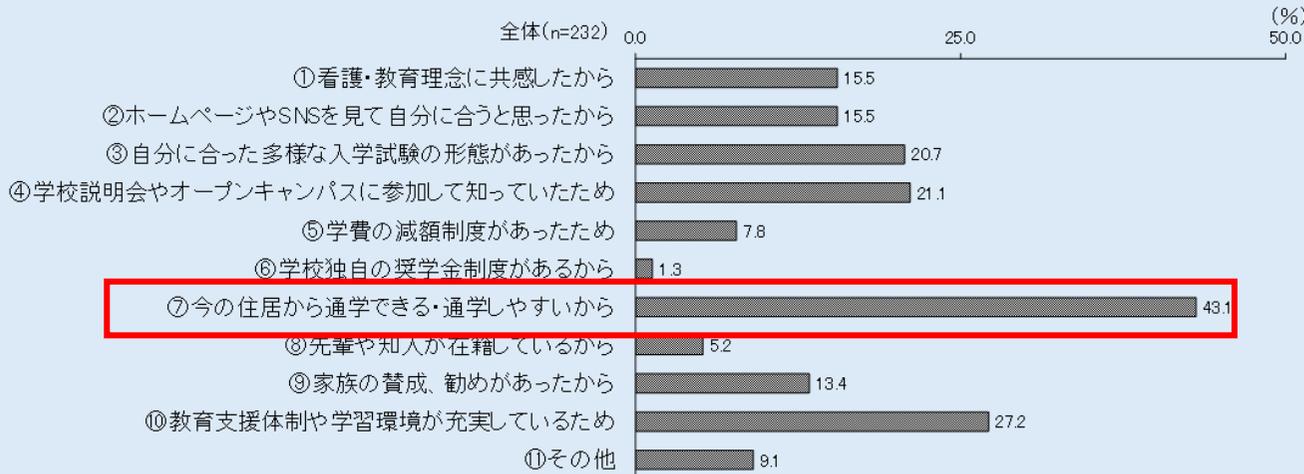
学生確保のための取組（複数回答）



「⑧学校説明会・オープンキャンパスの開催、随時受付」(92.1%)が最も多く、次いで「②ホームページの充実、頻繁な更新」(81.0%)、「①教育内容の充実、ユニークな教育活動」「⑩業者が行う合同進学説明会等への参加」(ともに61.9%)と続く。

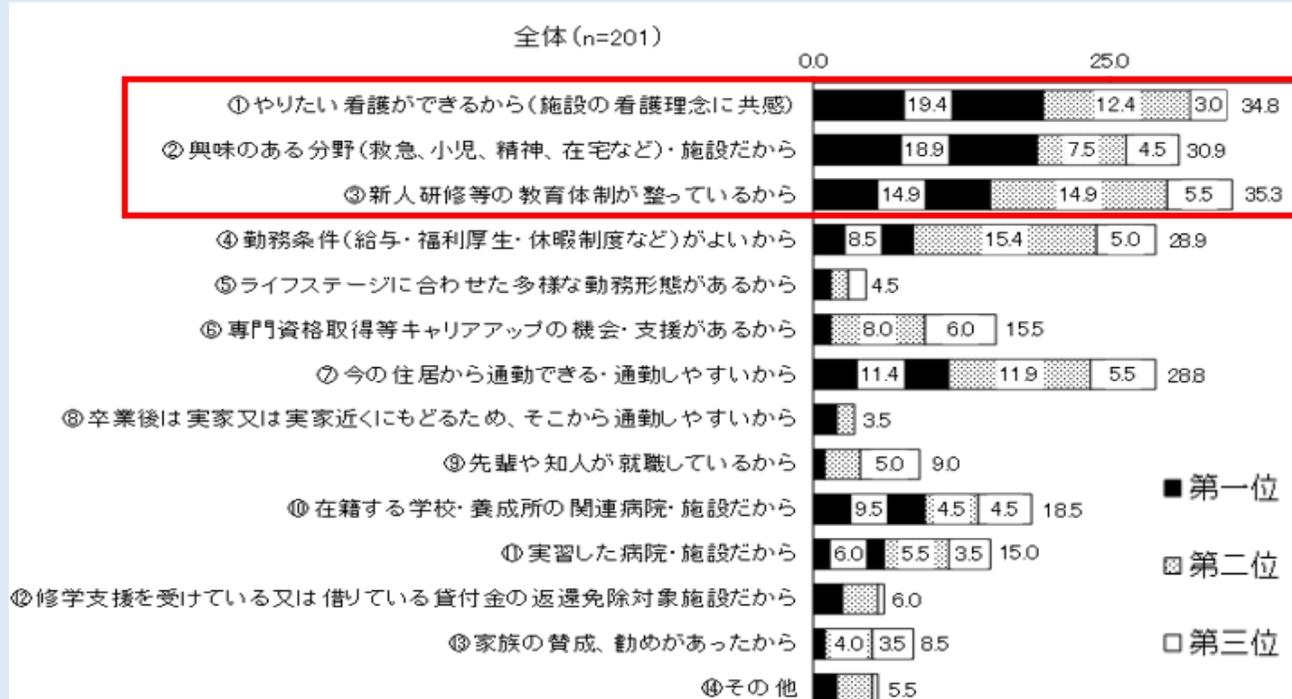
令和6年度 東京都看護人材実態調査 抜粋（看護学生編）

入学を決めた理由（上位2つ）



「⑦今の住居から通学できる、通学しやすいから」
43.1%が最も多く、
次いで「⑩教育支援体制や学習環境が充実しているため」27.2%、「④学校説明会やオープンキャンパスに参加して知っていたため」21.1%と続く

就職を決めた理由（上位3つ）



「③新人研修等の教育体制が整っているから」35.3%が最も多く、
次いで、「①やりたい看護ができるから（施設の看護理念に共感）」34.8%、「②興味のある分野・施設だから」30.9%と続く。